

令和3年度事業計画について

平成29年に改正された「文化芸術基本法」では、文化芸術の意義と価値を尊重しつつも、文化芸術そのものだけではなく、観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育などと連携し、文化芸術により生み出されるさまざまな価値を活用することにより、心豊かな国民生活及び活力ある社会の実現に貢献することを目的としている。

また、神戸市においては令和3年4月に策定の「神戸2025ビジョン」（計画期間2021～2025年度）やその具体的施策として、市の文化芸術施策が目指す姿や基本的な方向性を示す指針となる「神戸市文化芸術推進ビジョン」が策定されており、当財団としてもこれらのビジョン等を踏まえ、市民とともに喜び合える文化事業を実施し、文化芸術の振興に引き続き取り組んでいく必要がある。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により事業の見通しは不透明ではあるが、「第10回神戸国際フルートコンクール」や「オペラde神戸「椿姫」」などの大型事業に取り組んでいく。また、神戸市室内管弦楽団・神戸市混声合唱団の両楽団では新音楽監督を迎え演奏水準のさらなる向上とともに、集客力の強化を図る。さらに令和4年度以降を対象とする財団の中期経営計画の策定、新中央区文化センターや現文化ホールの指定管理の開始に向けて着実に準備を進めていく。

【主な事業内容】

(1) 第10回神戸国際フルートコンクール

1985年の創設以来4年毎に開催し、国際舞台の第一線で活躍するフルーティストを数多く輩出するコンクールとして世界的に高く評価されている本事業の開催を通じて、世界中の有望な若きフルーティストを世界の楽壇に飛翔させるとともに音楽を通じて国際交流と友好親善を図ることに加え、「音楽のまち神戸」として文化の香り豊かなまちづくりを推進する。また、開催前、開催期間中を通じ、コンクールを核とした関連事業、音楽祭を実施することで、市民への浸透、還元および機運醸成を図る。

(2) オペラde神戸「椿姫」

新文化ホール整備後の芸術文化の創造・発信も見据え、神戸を中心に活動する音楽家や公募で選ばれた市民コーラス等との協働により、市民オペラを制作・開催することで、オペラの魅力を身近にまた幅広く市民に伝え、優れた文化芸術に触れる機会の充実を図る。また、令和3年度は兵庫県立芸術文化センターの協力を得て、指揮者として国際的に評価の高い佐渡裕氏を招聘し、制作・共演を通じて、ホールに求められる必要な知見、企画力、発信力等を磨き、次世代の文化芸術を担う人材を育成することで、神戸の文化水準の向上に資する公演とする。

(3) フィリップ・リドリー×白井晃「マーキュリー・ファー」

イギリスの劇作家フィリップ・リドリーが2005年に書き下ろした最先端戯曲を神奈川芸術劇場で芸術監督を務めるなど実績ある演出家/白井晃が演出する演劇公演。暴力と略奪がはびこる荒れ果てた世界であぶりだされる人間の本质とともに、生きること、愛す

ることを渴望する人間の美しさが描かれる衝撃作。主演の兄弟を若い世代を中心に人気の高い吉沢亮と北村匠海が務める。世田谷パブリックシアターが製作し兵庫県芸術文化センター等でも実施される。話題性のある公演で新しい観客層を開拓するとともに、全国の主要な公共ホールとも連携し制作力を高めていく。

(4) 新開地カブキモノ大興行 vol. 4

令和2年度に予定していた「第3回新開地カブキモノ大興行」は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により「緊急事態 ver.」として、市民参加によるパレードをやめるなど内容を変更して実施したが、参加を楽しみにしていた方々も多かったことから、令和3年度に再度、新たな企画として、一般財団法人 地域創造「ダン活支援」の助成を受けて実施する。

＜公益目的事業＞

1 文化振興事業

(1) 事業方針

- ①市民の文化向上に資する質の高い鑑賞型事業の提供
- ②芸術文化による神戸ブランドの創造発信
- ③市民参加型芸術文化事業の充実
- ④地元芸術文化団体との協力関係の強化及び若手芸術家の発掘・支援
- ⑤情報収集・提供の充実（多様な文化芸術の紹介）
- ⑥芸術文化を担う人材の育成

(2) 事業内容

① 市民の文化向上に資する質の高い鑑賞型事業の提供

市民に感動を与え、感性や創造性を育む質の高い芸術を鑑賞出来る機会として、3年ぶり第4弾となる「オペラ de 神戸」歌劇「椿姫」を制作する。指揮者には過去2作品において監修協力に携わった世界的指揮者・佐渡裕氏を、また彼が音楽監督を務める兵庫芸術文化センター管弦楽団を招聘し、公募によるキャストらとともに市民オペラでありながらも、これまでより芸術性の高い公演を上演する。さらには関連事業として公開練習、学校へのアウトリーチ、ゲネプロ見学会等を実施し、身近な環境における優れた芸術鑑賞機会の提供を図る。

② 芸術文化による神戸ブランドの創造発信

国際舞台の第一線で活躍するフルーティストを数多く輩出するコンクールとして世界的に高く評価され、歴史と権威のある「第10回神戸国際フルートコンクール」の開催を通じ、神戸ブランドの創造発信を行う。また、「ジャズの街神戸」推進協議会の事業では、「神戸ユースジャズオーケストラ」の運営や、ラジオ番組の制作・放送のほか「ジャズの街・神戸」を発信するためのイベント等に取り組む。

③ 市民参加型芸術文化事業の充実

市民による芸術文化活動の発表機会を創出するため、「KOBE ミュージックポート」の取組みの一つとして市民参加による「大人数によるフルートアンサンブル」の動画制作を通じ、市民に音楽を楽しんでもらいながら、フルートコンクールを含めた「音楽祭」として盛り上げ、参加した市民にも発信の担い手になってもらう。

また、市民を含め出演者を広く募集して制作・上演する「オペラ de 神戸（再掲）」や、「シャンソン・ポピュラーコンクール」等の市民参加型事業を展開する。

④ 地元芸術文化団体との協力関係の強化及び若手芸術家の発掘・支援

神戸文化の基盤となっている地元芸術文化団体の活動を支援するとともに、協力関係の強化を図る。また、「神戸市吹奏楽祭」、「JAPAN STUDENT JAZZ FESTIVAL」等を通じて今後の神戸文化の担い手となる若手人材の育成を支援する。

⑤ 情報収集・提供の充実

神戸及びその近郊の様々な芸術文化活動を幅広く紹介する「KOBE C情報」の発信にSNSを活用する等、情報ネットワークが多様化した現代に対応するため、情報発信機能の強化を図る。

⑥ 芸術文化を担う人材の育成

各種事業の企画・実施を通じて、アートマネジメント能力の向上を図るなど、「担い手」としての養成・機会確保に努める。

2 演奏事業（神戸市室内管弦楽団・神戸市混声合唱団）

（1）事業方針

- ①神戸文化ホールおよび文化センター等における質の高い演奏の提供
- ②演奏水準のさらなる向上
- ③広報強化、アウトリーチの実施による両楽団の周知
- ④自主公演への集客強化と新たな依頼公演の獲得

（2）事業内容

① 神戸市室内管弦楽団・神戸市混声合唱団

神戸市室内管弦楽団・神戸市混声合唱団では神戸文化ホールでの定期演奏会・合同演奏会において、新音楽監督による指揮・プロデュースにより演奏水準のさらなる向上とともに、音楽的アイデンティティを確立し集客力の強化を図る。また、文化センターでは解説付きやファミリー向けなど新たなファン層を獲得するため、趣向を凝らした演奏会を開催する。

《神戸市室内管弦楽団 定期演奏会》

第 149 回	4 月 10 日（土）	鈴木秀美（指揮）
第 150 回	7 月 17 日（土）	鈴木秀美（指揮）、高木和弘（ソリスト/ヴァイオリン）
第 151 回	9 月 25 日（土）	鈴木秀美（指揮）
第 152 回	2 月 26 日（土）	鈴木秀美（指揮）

《神戸市室内管弦楽団 ベートーヴェン・チクルス（第 4 回）》

6 月 27 日（日） 【2020.7 月振替公演】	鈴木秀美（指揮）、白井圭（ソリスト/ヴァイオリン）
-------------------------------	---------------------------

《神戸市混声合唱団 定期演奏会》

9 月 11 日（土）	佐藤正浩（指揮）
3 月 5 日（土）	松村 努（指揮）

《合同演奏会》

12 月 12 日（日）	鈴木秀美（指揮）
--------------	----------

② 楽団の周知・魅力発信の取り組み

2つの楽団を持つ強みを活かし、合同公演を文化センターでも実施するほか、コンクール課題曲映像の収録・配信（無料）、商店街や集客力のあるショッピングモール等で積極的にまちなかコンサートを行い、楽団の周知および魅力を発信し、主催公演への集客や新たな依頼公演の獲得につながるよう、効果的なプログラムの検討および営業活動に取り組む。

また、次代を担う子ども達に対する鑑賞機会の提供のため、子どもと一緒に鑑賞できるコンサートを文化センターで実施するほか、小学生を神戸文化ホールに招待する「インリーチ事業」と、6年間で市内全小学校へ出張演奏を行う「アウトリーチ事業

（3年目）」に地元の音楽家とも連携し継続して取り組んでいく。さらに、市内在住者が通う特別支援学校へのアウトリーチ（出張コンサート）も継続して取り組んでいく。

3 神戸文化ホール公演事業

(1) 事業方針

- ①神戸文化ホールを拠点とした創造・発信事業の展開
- ②優れた舞台芸術の鑑賞機会の強化
- ③財団のネットワークを活用した市民・芸術家・文化団体・他地域の文化施設などとの交流や連携の強化

(2) 事業内容

① 芸術創造・発信事業

神戸市室内管弦楽団及び神戸市混声合唱団の公演や神戸の文化発信の基盤である地元芸術団体、文化の担い手である若手芸術家に発表の機会を提供するとともに、市民の参加や地域及び他地域の文化施設との連携により、文化施設としての機能充実につながる事業を展開する。また「創造・発信」への取り組みをより発展させていくために、制作や技術面でのスタッフの能力向上に努める。

② 教育普及・育成事業

子どもたちや働き盛りの若い世代や様々な障がいを持つ人たちが楽しくホールに集い、交流し、アートに親しむフェスティバル型の事業「オータムジャンボリー2021 コブホルランドへいらっしやい」を実施する。同事業では体験型のワークショップを行ったり、難解なイメージの伝統芸能（能、狂言）事業では解説セミナーなども取り入れる。合わせて質の高い鑑賞公演では積極的にアンダー25や学生料金を設けて、未来を担う子どもたちや若い世代が舞台芸術に触れる機会を生み出していく。

また、市内の小学生を招待するインリーチ事業や芸術家が学校に出張するアウトリーチ事業を実施し、文化・芸術の普及に貢献する。

③ 鑑賞型事業

質の高い公演や、民間では実現しにくい公演などを中心に、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供する。

具体的には世田谷パブリックシアターが製作しイギリスの新進作家フィリップ・リドリー脚本、白井晃演出、吉沢亮主演の演劇「マーキュリー・ファー」や市川海老蔵主演の歌舞伎「古典への誘い」など注目度や話題性の高い新規プログラムに取り組む。

4 神戸文化ホール貸館・管理事業

(1) 事業方針

- ①弾力的なホール運営と専門性の高いサービスの提供
- ②施設利用者、来館者の意見を反映したホール運営
- ③文化の発信拠点として地元芸術団体・若手芸術家を支援
- ④基幹ホールにふさわしい安全・安心な管理運営

(2) 事業内容

① 弾力的なホール運営と専門性の高いサービスの提供

年中無休、早朝仕込み・深夜撤収など、ニーズに応じた弾力的な運用を継続する。また、舞台スタッフによる専門性の高い舞台運営、ホスピタリティ溢れるホール運営で利用者をサポートする。

② 施設利用者、来館者の意見を反映したホール運営

利用後のアンケートや「お客様の声 BOX」でいただいたご意見・ご要望をもとに、ホール運営全般の改善に努める。

③ 文化の発信拠点として地元芸術団体・若手芸術家を支援、広域からのホール利用の促進

抽選会における優先利用制度や練習利用の割引料金制度による地元芸術団体、若手芸術家の活動支援を継続する。また、令和2年中にコロナ感染対策として従来の抽選会方法を変更し、メールを用いた事前受付制の抽選会とすることで対面接触を減らし、遠方の利用希望者のホール利用の負担を減じる受付方法を継続して実施しアクセシビリティを向上させる。

④ 基幹ホールにふさわしい安全・安心な管理運営

設備全般にわたる日常的な点検の実施、不良箇所への速やかな対処に努め、神戸市の公共基幹ホールにふさわしい安全・安心な管理運営を行なう。とくに空調機に抗ウイルスフィルターの設置、客席の抗菌コーティングによりコロナ禍においても利用者への安全・安心な環境の提供を図る。

また、キャッシュレス決済（電子マネー）で利用料金やチケット代金の支払いが可能となる電子精算機の機器の整備や、ホールでのインターネット配信の為光回線利用設備を整える等、利用者にとってより使いやすくなるサービスと設備を提供する。

5 神戸アートビレッジセンター（KAVC）事業

（1）事業方針

- ①先進的な芸術文化の事業の実施
- ②アートの世界への入り口となるワークショップや講座等の実施
- ③市内外の文化施設や教育機関等との交流及び連携
- ④事業を通じたまちの賑わいづくり及び活性化への寄与

（2）事業内容

① 演劇・舞踊事業

関西の若手劇団をセレクトして紹介する KAVC FLAG COMPANY では、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて延期となった2劇団を含む5劇団をラインナップする。また、アフタートーク、ワークショップと劇評の充実も行い、関西の劇場文化の底上げを図る。高校生を対象にしたGo! Go! High School Project も引き続き実施する他、令和2年度に開始したYouTubeで毎週火曜日に配信を行う「KAVC PLAY RADIO こやばなし」を7月まで継続し、年度前半の演劇企画の充実を図る。

② 美術事業

4回目となるART LEAP 2021は、ヴェトナム・ハノイのビンコム現代美術センターの芸術監督を務めた遠藤水城氏を迎える。これまで同様1人の審査員による1人(組)の中堅作家を選び、8-9か月の制作期間を経て、新作個展を開く。また若手作家を支援する展覧会を開催する。シルクスクリーンのワークショップを引き続き定期的に行い、シルクスクリーンの普及と「###」の販売促進に努める。

③ 映像事業

大手映画館では上映されないが、質の高い映画を上映するアート系シアターとして、毎月2週間4作品を目安に新作上映を行う。また特集上映として、三船敏郎を取り上げる。三船は、中国で生まれ育ち、初めて日本の地を踏んだのが神戸であった。また、「英国ナショナルシアターライブ (NTL)」やその解説講座、興行映画プログラムに関連して行うトークなど、映画を観るだけでなく深めるプラスαの企画も引き続き実施していく。

④ 地域事業

前出の新開地カブキモノ大興行のほか、新開地や元町の映画館と一緒に商店街店舗とも連携して行う地域映画祭「KOBE CINEMA PORT フェス」も引き続き実施する。昨年度から始めた地域の子どもの向けワークショップ「ひらめきのたね」は、講師のアーティストの作品を合わせて展示することで、身近なアーティストを紹介する場ともなっており、定期的に行う。1 roomの大きな窓ガラスに絵を描くワークショップは、参加者のみならず地元からも好評で、今年も夏バージョンと冬バージョンを実施する。

6 神戸アートビレッジセンター貸館・管理事業

(1) 事業方針

- ① 条例・規則に基づいた公平・公正な貸館サービスの提供
- ② 利用者が安全・安心・快適に利用できる貸館運営・利用者対応
- ③ 利便性の向上
- ④ 市民の芸術文化活動の促進・誘致
- ⑤ with コロナにおける「新しい生活様式」を考慮した貸館推進

(2) 事業内容

① 条例・規則に基づいた公平・公正な貸館サービスの提供

条例規則を基に「神戸アートビレッジセンター管理規定」を作成し、利用者に対して公平・公正なサービスを提供する。管理規定では条例規則で定められていない箇所を明確にし、恒常的に安定したサービスを引き続き提供する。

② 利用者が安全・安心・快適に利用できる貸館運営・利用者対応

経験豊かな人材による貸館対応スタッフを配置すると共に、貸館マニュアルやOJTにより全職員が基本的な貸館対応を行い、お客様を待たせない体制を整える。また、施設の使用用途を「練習施設」「発表施設」の2つに分類し、それぞれの対応フォーマットをまとめ、利用者が安心して利用できる体制づくりを整える。「発表施設」では、予約段階から相談や打合せなどの専門知識を備えた施設運営スタッフが対応を行う。また、全国的に珍しいシルクスクリーン工房「アトリエ KAVC」の利用に関しては、技術スタッフを配置し、初心者利用からアーティストなどの多彩な表現に答えられる体制を整える。

③ 利便性の向上

アンケート調査を元にした利用者ニーズを把握し、貸館の利便性向上を常に意識して運営を行う。貸館予約システム導入やSNSを活用した広報、積極的な情報公開を行い、利用者が快適に使うことのできる貸館運営を行う。その他、利用申請の受付、抽選方法など貸館事業における利便性向上のための取り組みを継続して行う。

④ 市民の芸術文化活動の促進・誘致

貸館事業でも協力事業・提携事業・共催事業を検討し、地域にゆかりのあるアーティストや、市民の文化・教育普及につながる催しなどに対して貸館事業として支え、市民の芸術文化活動の促進につなげる。

⑤ with コロナにおける「新しい生活様式」を考慮した貸館推進

長期化する新型コロナ感染症対策において、新しい生活様式を考慮した貸館推進として「施設利用減免サービス」、「感染防止対策支援サービス」、「ICT活用技術支援サービス」、「広報・ネットワーク活用サービス等」を検討し、利用推進を図る。

7 文化センター講座・地域連携事業

(1) 事業方針

- ① 「地域住民とともに歩む文化センター」として市民の文化活動ニーズに対応
- ② 講座事業や地域連携事業の実施
- ③ 「文化センターサポーター」などによる事業運営への住民参画
- ④ 財団が有する文化事業運営ノウハウや、文化団体との人的ネットワークを活用

(2) 事業内容

① 講座事業

入門者・初心者対象の文化・教養・スポーツなどの講座を、令和2年度よりコロナウィルスの流行により春季・夏季・秋季・冬季の3ヶ月単位に変更。講師・受講生にコロナ感染対策に協力いただきつつ講座事業を継続し、「with コロナ」の中でも文化活動を楽しんでいただけるよう運営していく。また、一部センターでは再流行も視野に含めて開始した、オンライン講座を継続して実施。新たな受講者層の開拓を図るため、文化に造詣の深いお笑い芸人を写経講師として招聘するなど今後の新たな講座のスタイルも模索していく。

② 地域連携事業（地域住民参加型のイベント及び地域文化活性化事業）

各センターの特色を生かした住民参加型の事業に取り組むとともに、「だんじり」や「須磨琴」など地域の伝統文化や歴史を生かした事業を実施する。令和2年度より指定管理となった旧勤労市民センターを中心として、市の文化財課や博物館との連携事業を多数展開した実績を踏まえて、今年度も文化振興に関わる他施設との連携を強化していく。

また地域文化活性化事業として、従来 of 伝統文化や歴史を生かした事業に加え、神戸にゆかりのある音楽家や落語家を迎えた公演や、文化振興財団が事務局を担っている神戸ユースジャズオーケストラの公演を企画する等、今まで以上に色彩豊かな事業展開を行っていく。

※地域文化活性化事業の例

- 東灘 : ミュージックフェスタ
- 灘 : 人形劇「ルドルフとイッパイアッテナ」
- 兵庫 : 神戸ユースジャズオーケストラ演奏会
- 北 : すずらんホール農村歌舞伎
- 北神 : 小松英典バリトンリサイタル in ありまホール
- 長田 : ピフレ de アート
- 北須磨 : 桂あやめの落語会
- 西 : 神戸農村歌舞伎

③作品展示会・発表会

文化センターのギャラリーやロビー、ホール及び花時計ギャラリーにおいて、講座受講生をはじめとする市民の絵画、陶芸、写真などの作品展示会や舞踊、音楽等の発表会を実施する。

④CS 神戸との協働事業

神戸いきいき勤労財団から引き継いだ生涯学習事業に取り組むNPO法人「CS 神戸(コミュニティーサポートセンター)」との協働事業を拠点のある灘区文化センターと兵庫区文化センターで実施する。

8 文化センター貸館・管理事業

(1) 事業方針

- ①料金割引制度や利用団体への広報・相談サポートなどの向上と積極的な広報活動による利用促進
- ②長年培ったノウハウの活用による、安全・安心で快適な利用環境の提供

(2) 事業内容

- ① サービスと利便性の向上
例：休館日の祝日開館、インターネット予約受付、インターネット無料接続サービスの提供、利用料金の割引対象拡充、利用料金等のキャッシュレス決済の導入（令和3年8月予定）など

- ② 地域文化団体との連携強化による情報発信や運営サポート支援
例：地域文化団体の利用料金割引拡充、貸館利用団体専用掲示板設置など

- ③ 積極的な貸館セールス
例：「文化センターだより」発行、「友の会」・ホームページの活用
入口付近設置の大型ディスプレイによる、空室状況の掲示

- ④ 省エネルギーや環境を意識した設備管理
例：節電、環境保護の取り組みの日常業務への組み入れ

9 広報事業

財団事業の市民への周知、芸術文化への市民参加の機会拡充、財団の収益向上などの観点から、広報体制を確立するとともに、メディアの活用など多様な手段により、これまで以上に積極的な広報 PR に努める。

(1) 「KOBE C情報」の発信

芸術文化に関する多様な情報を市民に提供することを目的として昭和 57 年より発行を続けた文化情報誌「KOBE C情報」を令和 2 年度にリニューアルし、令和 3 年も SNS (Instagram 公式アカウント) および財団ウェブサイトにて、市内及び近隣都市の幅広い文化情報をタイムリーに発信する。

(2) 神戸文化ホールからの情報発信強化

神戸文化ホールの情報発信機能として昨年度は一年間休刊した情報誌「ほーるめいと」について、内容を刷新して発行 (18,000 部/隔月) する。また SNS を活用したメールマガジン、フェイスブック、ツイッターでの発信や、ホームページの内容の充実など若い職員の意見を取り入れながら発展させていく。

(3) 文化センターからの情報発信強化

文化センターの情報発信機能の充実を図るため、チラシやホームページでの情報提供のほか、ポスティング、文化センターだよりの発行、友の会運営に取り組むとともに SNS を積極的に活用していく。

(4) 神戸アートビレッジセンターの情報発信強化

情報発信機能を充実、強化するため、チラシやホームページ、SNS など幅広い広報 PR に努める。また広報誌「ART VILLAGE VOICE」の発行 (季刊発行)、友の会「かぶっクラブ」の運営、神戸市内の文化施設との連携など地域や他施設への定期的な情報発信に取り組む。舞台公演の有料配信のほか、トーク企画などは YouTube で無料配信しており、インターネット上での情報発信を強化していく。

(5) インターネットによる情報発信

当財団が主催する主要事業などを幅広く紹介するとともに、管理している各施設の空室情報や講座の受講申込み、各種情報誌の内容をホームページに掲載する。

また、ツイッターやフェイスブック、インスタグラムなど多様な SNS を活用したリアルタイムの情報発信に積極的に取り組むとともに、動画共有サイト等による事業広報を展開する。

(6) 広報 PR の強化

財団事業を総合的かつ横断的にプロモーションし、公演の入場者数や入場料収入の増加につなげていく。

また、話題性の高いコラボレーション番組の共同制作・放映、ラジオ番組作成、各種資料提供などマスコミを活用した情報発信に積極的に取り組む。

<収益事業>

(1) 神戸文化ホール貸館・管理事業

神戸文化ホールにおいて、コンベンションなど文化活動以外を目的とする活動の場の提供を図る。また自動販売機設置や駐車場など神戸文化ホール利用者へのサービス向上を行う。

※施設概要	大ホール	: 2043 席
	中ホール	: 904 席
	リハーサル室	: 150 名
	練習室 1~5	: 15 名~150 名
	多目的室・特別控室	
	自動販売機	: 7 台
	駐車場（神戸文化ホール練習場）	: 10 台

(2) 神戸アートビレッジセンター貸館・管理事業

芸術文化活動以外を目的とする活動の場の提供を図る。また自動販売機設置を行うほか、飲食店舗「はっちゃんの台所」など利用者へのサービス向上と地域の賑わいづくりにつながる 1 room の活用を行う。

※施設概要	多目的ホール	: 232 席
	視聴覚ホール	: 94 席
	ギャラリー	: 148 m ²
	リハーサル室 1~2	: 120 m ² ~189 m ²
	会議室 1~2、スタジオ 1~3、1room 等	
	自動販売機	: 4 台

(3) 文化センター講座・地域連携事業

当財団が指定管理者として管理運営する文化センターにおいて、美容・スポーツなどの文化振興目的以外で利用者ニーズの高い講座や自主事業を開催する。

※例 講 座：健康体操、スポーツ吹矢、バドミントン、卓球、スイミングなど
自主事業：コミュニティフェスティバル、卓球大会など

(4) 文化センター貸館・管理事業

指定管理者である文化センターにおいて、イベントなど文化活動以外を目的とする活動の場を提供する。令和3年度7月より神戸市こども家庭局の委託事業として貸会議室を中高生向けの自習室として開放。また自動販売機設置や駐車場等文化センター利用者へのサービス向上を行う。

※施設概要	大ホール、体育施設、プール	
	会議室、多目的室	
	和室・音楽室・美術室・陶芸室等	
	自動販売機	: 40 台
	駐車場（北神区文化センター）	: 123 台

＜法人管理運営事業＞

（１）専門性の強化・効率的な執行体制の構築

芸術文化事業についての研修等の充実を図り、職員の知識の向上及び専門性の強化など人材育成に努めるとともに、優秀な職員を固有職員として登用する。

平成30年度から、職員研修を充実させ、職員に基礎実務研修や専門家を招聘した特別講義等を定期的で開催し、人材育成プログラムの充実を図っている。

令和3年度について、外部からの専門人材を登用し新文化ホールを見据えた演奏事業、文化ホール事業の強化を行うほか、イベント運営のノウハウ修得も目指し「六甲ミーツ・アート芸術散歩」の事務局を担う六甲山観光株式会社への人的支援を2年度に引き続き実施する。

（２）経営基盤の強化

「中期経営計画2021」で定めた目標の実現に向け、事業を着実に実施していくためには、経営の安定が必須であることから、事業収入の確保のほか、公的及び民間団体からの助成金の獲得、税制優遇制度を活用した寄附など外部資金の獲得に向けて、これまで以上に力を入れて取り組む。

また、当財団事業について、改めて再構築の観点から徹底的な見直しを進めていくとともに、令和3年度よりセグメント会計を導入し、事業部毎の独立採算を目指す。

平成30年7月に地元経済界が立ち上げた芸術文化を支援する「神戸文化マザーポートクラブ」の事務局を当財団が担うことで、芸術文化界と地元経済界のつなぎ役を担うとともに、当財団としても経済界との関係を深め、当財団に対する企業協賛等支援の獲得を目指していく。

V 数値目標

	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度目標
創造発信型事業の数	120	134	100

【普及啓発】

	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度目標
アウトリーチ等実施回数	130	96	35

【国際交流事業】

	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度目標
海外芸術家等による公演等実施回数	11	0	17

【指定管理施設管理事業】

1 神戸文化ホール

		令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度目標
利用率 (踏入率)	大ホール	75.9%	38.0%	82%
	中ホール	70.3%	58.5%	88%
利用率 (実利用率)	大ホール	66.0%	35.0%	72%
	中ホール	65.3%	50.7%	76%
利用者数	大中ホール	415,333人	55,292人	55万人
	練習室含む	457,954人	77,994人	61万人
利用者満足度		96.9%	100%	95%
友の会 加入数	個人	1,137人	788人	2,000人
	法人	0	0	18社

2 神戸アートビレッジセンター

		令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度目標
利用率 (踏入率)	ホール	82.1%	57.9%	65.0%
	シアター	75.0%	67.3%	80.0%
	ギャラリー	73.9%	74.8%	80.0%
利用率 (実利用率)	ホール	75.5%	52.8%	65.0%
	シアター	71.1%	65.6%	80.0%
利用者数		176,283人	73,998人	185,500人
利用者満足度		99.1%	99.4%	85.0%

3 文化センター

		令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度目標
利用率 (踏入率)	全体	68.7%	55.9%	80.0%
	うちホール	64.9%	52.6%	73.0%
利用率 (実利用率)	全体	45.5%	34.1%	52.0%
	うちホール	41.6%	30.8%	47.0%
講座受講者数		24,200 人	20,900 人	40,000 人
利用者満足度		95.7%	98%	95%

※令和3年度目標値は12センターでの目標値

【財団管理・経営関係】

	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度目標
経営目標（年度収支の均衡）	+28,401 千円	▲96,124 千円	46,321 千円